

道 標 (みちしるべ) 第121号 校長 稲垣 達也

平成22年11月6日

中学生のための「礼儀・作法読本」 横浜市教育委員会

先日、横浜市教育委員会が中学生を対象にした「礼儀・作法読本」を作ったという新聞記事を目にし、さっそく横浜市の指導主事から送っていただきました。近々市販もされるそうです。

こういう本を作るという発想が、まさに目から鱗です。

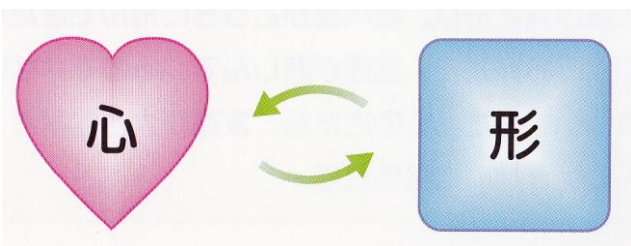
「礼儀」とは、相手を大切に思う心が、外部に現れた姿です。「作法」とは、相手に気持ちよく感じてもらうためには、どのような形がよいのか、社会の中の決まり事として伝わってきた立ち居ふるまいです。

「礼儀・作法」は、教えられないと、知らないままで過ごしてしまいます。これを知ること、自分も周りのも、気持ちのよい和やかな活を送ることができます。

あなたは、相手を大切に思う素敵な心が備わっているはずですが、でも、わかる形に表現しなければ、その心は相手に届きません。

また、いくら形が整っていても、相手を大切に思う心がこもっていなければ、相手に気持ちよく感じてはもらえません。

あなたの素敵な心を行動に表せたとしたら…



江戸しぐさ①

皆さんは「江戸しぐさ」というものを知っていますか？「江戸しぐさ」とは、江戸時代の商人の生活哲学、商人道と言われているものです。

この「江戸しぐさ」に、「七三の道」というものがあります。道路は大勢の人が通るところだから、真ん中をいばって歩かないで、ちょっと譲って脇を歩きなさいという教えです。

礼 儀

「礼儀」とは、相手を人間として尊敬する気持ちの表れです。互いに相手を尊敬し、思いやり、心を通い合わせると、社会生活を気持ちよく過ごしていくことができます。
視線（まなざし）は、人の心を忠実に伝えます。

心があっても 形に表さなければ心は伝わらない。
形があっても 心が伴っていないと伝わらない。

礼 …… 相手に対する敬意を心から示す

儀 …… 相手に「心」を伝えるための動作



2 学校で

学校生活の場面で具体的にどのような礼儀が求められるのか、確認しましょう。

(1) 一日の流れの中で

学校に行こう！ ～気持ちよい朝～

自分元気！ 校門での出会い
「おはよう！」は、めんどくさいから言わないなど思っていますか？
あいさつは、「めんどくさいこと」とは違いますね。

<昇降口で> あなたはどっちかな？



他のことを考えているときや、急いでいるときに、左のようになってしまっているではありませんか？
きちんとそろえても、時間はたいてかかりません。

分かれは何でも楽しい！ ～自分のための学習～

<号令のかけ方>



言葉には意味があります。

でも、あいさつや号令のような決まり文句になると、言うことが当たり前になり、その意味を考えなくなりがちです。
(これから勉強するぞ！) という意気込みや、教わるという心の準備ができていますか？
「よろしく願います。」「ありがとうございました。」と、感謝の気持ちを言葉に表し、心をこめて言いましょう。

本校でも、ルール・マナー・規範意識等の徹底を図っていますが、あらためて「礼儀」「作法」「立ち居ふるまい」「江戸しぐさ」など日本古来の伝統的な言葉が持つ韻の深さを感じました。日本人らしい「立ち居ふるまい」を、私たち自身もできているのでしょうか？ 原本を回覧しますので、学級指導等に役立ててください。ただし、転載・複製は不可です。本校版を作りたいものです。

ちなみに横浜市は、トイレ掃除を30年振りに復活させた市でもあります。これも参考にしたい。

道 標 (みちしるべ) 第123号 平成22年11月10日 校長 稲垣 達也

『江戸しぐさ』 東京都中学校長会 会報 平成21年9月10日号より

「随想」 江戸しぐさ 目黒区立第一中学校長 佐伯 英徳 先生

「その昔は、先祖がお世話になったこともあるかと思います〇〇（氏名）でございます。」過日、実施した道徳授業地区公開講座での『今に生かす江戸の心』をテーマとしたNP0 法人江戸しぐさの方々による講演会での挨拶です。

「江戸しぐさ」とは、18世紀、人口140万人を超える大都市であった江戸の町において、江戸の賢者（商人や町衆）が、人々がどうしたら気持ちよく生活できるかを考え出した知恵や生活哲学、商人道であり、しぐさは仕草ではなく思草と表記するのだそうです。江戸の町衆たちは、出会う人は皆「仏の化身」と考え、失礼のないしぐさを身につけて、自分は一步引いて相手を立て、決して傷つけない、威張りもしなければ媚びることもしない、対等な人間同士としての自然な立ち振る舞いを実践していたのだそうです。

挨拶はその基本であり、たとえ当人同士が初対面であってもお互いにご先祖様は顔見知りで仲良しなのだという観念から、自分たちにも縁あるということで、冒頭での挨拶が生まれます。その根底には、生まれたことに感謝し、相手を人間として尊重し、互いに人間として誇り高く生きていく共生の心があり、代々親から子へ口伝えて語り継がれていきました。

以下に、講演で紹介された主なしぐさを紹介します。

◆肩引き

道を歩いて人とすれ違う際に右肩、右腕を後ろへ引いて互いにぶつからないようにするしぐさ

◆傘かしげ

雨や雪の日に相手も自分もお互いが濡れないように傘を人のいない外側にずっと傾けてすれ違うしぐさ

◆うかつ謝り

足を踏まれたとき踏んだ方はもちろん謝り、踏まれた方も「すみません、こちらもうかつでした」と謝ることでトラブルを避けるしぐさ

◆こぶし腰浮かせ

渡し船で舟を待っているとき、後から乗ってきた客のために、こぶし一つ分だけ腰を浮かせて席を詰めるしぐさ

◆時泥棒

相手の都合を考えずいきなり押しかけてくる人のことで、相手の時間を奪う重大な罪にあたる

講演では、2名のインストラクターの方々が本校の生徒たちに江戸しぐさを実演させ、しぐさの持つ意味を一つ一つ示してくださいました。

「知らなかった身近にある日本の文化がわかりおもしろかった。」「江戸しぐさを現代の人々が心がければ、争いがなくなったり、困っている人を助ける人情が生まれたりして、日本だけでなく、世界に平和が訪れると思いました。」「最初は、いつも自分がやっていることかなあと簡単に考えていたけど、江戸のマナーには深い意味や考え方があり、すごいと思った。」等々、講演後に書いてもらった生徒の感想はどれも率直で心温まるものばかりでした。

NP0 法人江戸しぐさの代表である越川禮子さんは、著書の中で、「江戸しぐさ」は、社会人として身につけておくべき大切な心得である、人の上に立つ者の行動哲学であり融合のしぐさであり平和のしぐさであると述べています。生き生きと働き、生き生きと人のためにイキなはからいの出来る大人になりたいものです。

(参考文献)「身につけよう！ 江戸しぐさ」 越川禮子著 KK ロングセラーズ刊